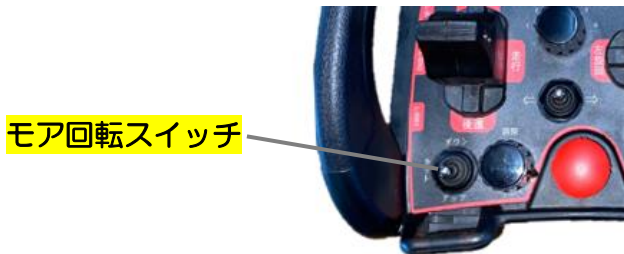


## 6章 運転と作業のしかた

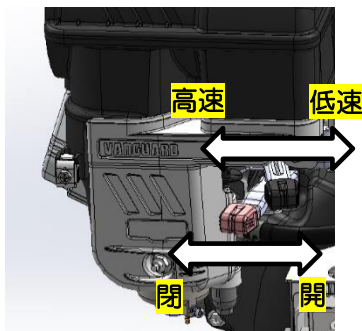
### 4. エンジン始動のしかた

- ①前項2の通り本機とリモコン送信機の電源を入れリモコン送信機のLEDが青色に点灯していることを確認します。
- ②モア回転スイッチが中立の位置になっていることを確認します。

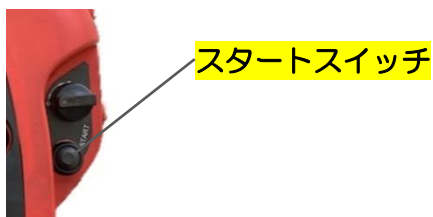


**!** このスイッチが入っていると安全のためエンジンはかかりません。

#### ③チョークレバー・スロットルレバー



- スロットルレバー  
高速と低速の中間位置にしてください。
- チョークレバー  
エンジンが冷えているときは「閉」の位置にします。



- ④スタートスイッチを押し続けるとセルモータが回りエンジンが回転します。
- エンジンの燃焼爆発音が聞こえたらチョークレバーを「開」へ戻しエンジンが始動するまでスタートスイッチを押し続けます。
  - エンジン始動後は中間スロットルの位置で数分間の暖機運転を行ってください。

### 5. 走行運転のしかた

走行や草刈操作には慣れが必要です。慣れるまでは安全で広い場所で操作を繰り返し行い、習熟してから作業を行ってください。

**!** 警告

- 傾斜地では本機の傾斜角度に注意して45度以上の傾斜地では運転しないでください。ブザー音が発生した時はすみやかに進行をやめて、ゆっくりと傾斜の緩やかな場所へ移動してください。
- 転倒・転落した場合は、火災の恐れがあります。直ちにリモコン送信機と本機の電源を切ってください。
- 急激な方向転換はゴムクローラの早期摩耗や欠損、又路面を荒らす原因になるばかりか、危険です。ゆっくりとしたレバー操作をしてください。



- ①前進・後進する場合は、「左レバー」をそれぞれ「前進」「後進」側へ倒します。車速はレバーを倒す量で調整できます。
- ②前進・後進しながら左右へ進路を変更する場合は、左レバー操作と同時に「右レバー」を「右旋回」「左旋回」の方向へ倒すとその方向へ進路を変更します。レバーを倒す量で進路変更の旋回量を調整できます。

## 6章 運転と作業のしかた

- ③その場で本機の向きを変更する場合は、「左レバー」を操作せずに「右レバー」を「右旋回」・「左旋回」へ倒すことで、その場旋回（超信地旋回）をします。

### 6. 最高速度の設定のしかた



速度設定ダイヤル

速度設定ダイヤルの位置で左レバーを最大に倒した時の本機の走行速度を設定します。

- 時計回りに回すと早く，反時計回りに回すと遅くなります。

最高速度・・・5.0km/h  
最低速度・・・1.0km/h  
(最大エンジン回転数時)

作業圃場の草の長さ・密生度に合わせて速度を調整してください。

### 7. 停止・駐車のしかた

#### 警告

- 本機から離れるときには、地盤のしっかりした平坦で安定した場所を選び、軟弱地や斜面など危険な所は避けて停車してください。
- やむを得ず斜面に止めるときは、必ずクローラを斜面と平行にして、クローラには歯止めを行ってください。
- モア作業機は地面に接地させてください。

- ①モア回転スイッチを中立位置にする。
- ②モアの回転が停止したことを確認する。
- ③モアを地面と接するまで下げる。
- ④本機および、リモコン送信機のキースイッチで電源をきります。

### 8. 作業のしかた

#### 警告

- 作業前にはほ場内の石、ゴミ、缶、木等の障害物を取り除いてください。飛散して障害事故および、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 子供やペット、第三者が周りにいないか注意してください。もし近づいたら直ちに作業、走行を中止してください。
- ナイフ軸に異物が巻付いたときは、直ちにエンジンを停止しナイフ軸の回転が停止してから取り除いてください。
- 本機のクローラ走行部への草・つる等の巻き付きは取り除いてください。
- 異常な振動が出ていると思われる場合は直ちにエンジンを停止し、原因を調べてください。
- 本機と操作者の距離が大きく離れると、本機の動きを把握できなくなり危険です。操作は本機の動きを把握できる 20m 程度の距離までで行ってください。
- モアを回転させるときや草刈作業中は本機の前には立ち入らないでください。ナイフに付着した異物、刈った草や石等が飛散することがあり危険です。
- ぬかるみや水たまりの多い場所では作業を行わないでください。自走で脱出ができなくなる恐れがあります。
- 作業衣は長袖、長ズボンを着用し、帽子またはヘルメット、保護メガネは必ず着用してください。
- 走行操作レバーを急激に倒さないでください。ゆっくり操作してください。
- わき見運転はしないでください。
- プロポ送信機の操作は必ず指で操作してください。

#### 「作業場所の下見」

作業を始める前に、作業場所の下見を行ってください。

- 石、ビン、缶類、等の障害物を取り除いてください。
- 地形をよく把握してください。溝、段差、軟弱地など危険な場所は目印を付けるなどしてください。
- 旋回する場所を確認してください。特に傾斜地での地盤を確認してください。

## 6章 運転と作業のしかた

### 「刈取り作業」

- ①エンジンのスロットルレバーを高速側一杯にして最高回転にします。
- ②モア昇降スイッチでモアを地面から浮かせます。
- ③モア回転スイッチでモアを回転させます。通常はアップカットを使用します。
- ④刈高さの調整  
4章リモコン送信機 各部のはたらき⑧～⑪を参照して、ほ場に合った適切な刈高さにします。

### [取り扱いの注意]

凹凸のはげしいほ場ではナイフと地面が接触しやすく危険です。地面とナイフが接触しないように刈高さは高めに調整するように心がけてください。

#### ①作業速度

良好な刈取り作業を行うために、モアナイフ軸のスピードは常に最高回転になるようにしてください。エンジンのスロットルレバーを最高回転の位置にすることでナイフ軸の最高スピード、エンジンの最高出力が得られます。本機の作業速度は走行レバーを倒す量により調整します。作業速度は、草の状態、仕上げ刈高さ、運転者の慣れなどにより調整してください。エンジンが停止したり回転が大きく低下するような過負荷での刈取り作業はさけてください。

草丈が高く、密集した草によりエンジンへの負荷が大きい場所では速度を落として作業をするか刈高さを高くして刈取り、後からもう一度仕上げ刈りをするなどして過負荷運転を避けてください。

#### ②操作位置

本機の斜め後方に立って操作すると、進行方向が分かりやすく操作がしやすくなります。本機から5m以上離れるようにしてください。

### [取り扱いの注意]

足元が安定する平坦地から操作をするようにしてください。斜面での操作は足元が滑った時や転倒により機械が意図せぬ動きをする恐れがあり危険です。

歩いて移動する際には機械の走行を一旦止めてから足元に注意して歩いてください。

#### ③急斜面と平地の凸境界での作業

車体の底が地面とあたり走行不能になる恐れがあります。又、モアを下げた状態では地面を大きく削るおそれがあり危険です。左右のクローラが平地、傾斜地と別れないように走行してください。

#### ④斜面の作業では、下方から作業を始めて

等高線に沿って刈りながら次第に上方へと移動するように作業してください。

斜面上方から作業を行うと谷側の足場の確認が困難なため危険です。

谷側に突然の窪みや段差があった場合、転倒する恐れがあります。

#### ⑤斜面作業での操作位置

斜面上側の平坦地から本機を見下ろす位置で操作します。本機の下側で操作をすると本機がスリップや転倒したりした時に巻き込まれる恐れがあります。

### [取り扱いの注意]

長い草の刈取り作業や縦に長い斜面での作業等で見通しが悪い場合にやむをえず本機の下側で操作する場合は本機と操作者が縦に交差する前に本機の走行を一旦止め、本機の斜め後方へ移動してから作業を再開してください。

#### ⑥大小の転石が多量にある場所での走行は、石を噛み込みクローラを痛めたり、クローラ外れの原因になりますので出来るだけ避けて走行するように注意してください。

#### ⑦エンジンの冷却風取り入れ口にある吸気

スクリーンに張り付いた刈草等はこまめにとりのぞいて清掃してください。エンジンオーバーヒートや作動油の過熱の原因となります。

#### ⑧作業中、縁石や岩、切株等にナイフがあたり衝撃があった場合には、直ちにエンジンを停止し、ナイフ、及び締付ボルトに曲がりや割れ、摩耗が生じていないか点検してください。

異常があれば直ちに修理をしてください。

修理をしないまま作業をすると思わぬ事故につながります。

## 6章 運転と作業のしかた

### 9. トラックへの積み込み・ 積み降ろしのしかた

#### 警告

- トラックへの積み込み・積み降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板（道板）は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選びあゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- 車輛があゆみ板の上で横すべりしないようにクローラに付いた泥などを落としてください。
- あゆみ板の上では絶対に方向転換しないでください。方向転換が必要な場合は、一旦あゆみ板より降りてからやり直してください。
- 本機の重心があゆみ板とトラック荷台の継ぎ目を越えるときには、本機先端が急激に上下に動きます（バタン現象）ので十分注意して積み降ろしをしてください。  
必ず遅いスピードで積み降ろしを行い、予め周囲に物を置かないようにしてください。

#### ①あゆみ板による積み込み・積み降ろし 〈あゆみ板の基準〉

- 長さ・・・車の荷台高さの3.5倍以上
- 幅・・・25cm以上
- 強度・・・500kgに十分耐えられるもの
- 表面が滑らないように処理してあること
- あゆみ板は、左右段違いにならないようにし、また荷台中心に対して左右均等な位置へ確実に取り付けます。

#### 〈積み込み〉

- (1)モア作業機があゆみ板に当たらないように上昇させます。
- (2)あゆみ板に対してまっすぐに方向を定めてゆっくり積み込みします。
- (3)あゆみ板から踏み外れないように、レバー操作は慎重に操作してください。
- (4)積み込みが終了したらモアを荷台床に接地させ、エンジンを停止します。  
ロープで本機を確実に固定してください。

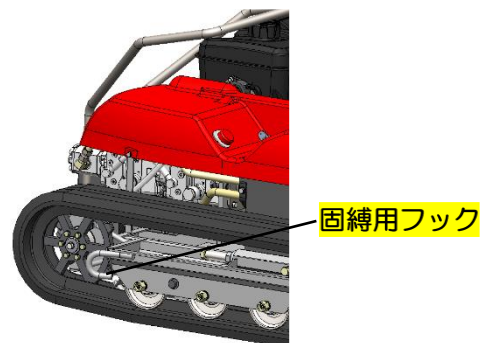
#### 〈積み降ろし〉

積み込みと逆の手順で行ってください。

### ②運搬の方法

#### 警告

- 丈夫なロープを本機に掛け、確実に固定してください。モアは必ず荷台床に接地するまで下降させたのち、荷台の幅から出ないように確実に固定してください。  
守らないとトラックのブレーキを急にかけた時などに、本機・モアが荷台から転落したり、はみ出す等の思わぬ傷害事故の原因になります。



- 本機後方側の左右にロープ固縛用フックがあります。ロープを荷台とフックにかけて動かないようにしっかり固定してください。
- 本機前方はモア作業機が運搬走行中に浮かないように、下方向へ押し付けるようにしっかり固定してください。

#### ●最大積載量を超えて荷物は運搬しない

軽トラックの最大積載量は350kgです。  
本機械の総重量は340kgです。  
軽トラックで運搬するときは最大積載量を超える荷物を荷台へ載せてはいけません。

#### [ 守らないと ]

最大積載量を超えると、安全な走行が行えず交通事故を引き起こすおそれがあります。  
又、法律によって運転手や荷主が罰せられます。

- 軽トラックで運搬する際は、タイヤ空気圧を重荷載用に調整してください。タイヤバースト（パンク）の恐れやホイールを傷つける恐れがあります。

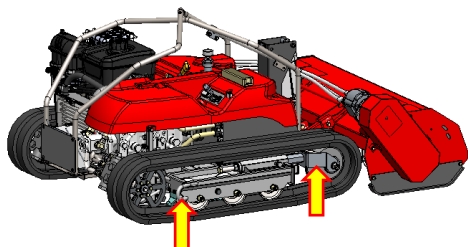
## 6章 運転と作業のしかた

### 10.けん引の禁止

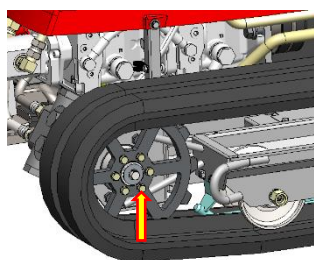


#### 警告

- この機械ではけん引作業は絶対しないでください。  
けん引すると思わぬ重大事故になる恐れがあります。
- 故障時の本機本体のけん引はできません。  
この機械は油圧駆動方式のため無理にけん引すると油圧機器が破損する場合があります。  
故障時はクレーンで吊り上げるか、コロを利用して搬送可能な場所まで移動してください。



本機を吊り上げる時は上図の矢印部分  
左右合計 4 箇所を使用してください。  
[ 後方：固縛用フック 左右 ]  
[ 前方：誘導輪ブラケット 左右 ]



- 故障時等にクレーンやコロが無く、やむをえず本機をけん引する場合には上図矢印部のスプロケット固定用の M8 ボルト 6 本 (左右 1 2 本) を抜き取ってください。  
油圧モータとクローラが切り離れます。  
搬送可能な場所までの最低限の移動にとどめてください。